

《担当者名》 中川 賀嗣 今井 智子 太田 亨 下村 敦司 田村 至 榊原 健一 橋本 竜作 福田 真二
森元 良太 黒崎 芳子 小林 健史 前田 秀彦 柳田 早織 飯泉 智子 葛西 聡子
大澤 昌之（非常勤講師）

【概要】

3年半で学んできた学習成果を振り返り、言語聴覚療法に関する基礎および専門分野の知識の定着を図る。

【学習目標】

言語聴覚士として必要な知識や技術を適切に備え、これらを実践の場で活用するために、これまでに学んだ言語聴覚療法に関する基礎および専門分野の知識の整理統合を行う。

言語聴覚療法に必要な基礎知識（基礎医学、心理学、音声・言語学、社会福祉・教育などの領域）について説明できる。

言語聴覚療法の対象となる疾患と障害の成り立ちおよび症状について説明できる。

言語聴覚療法の検査・診断およびこれらの実施方法について説明できる。

言語聴覚療法の治療法について説明できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	ガイダンス	科目の概要、学習目標、講義日程、学習内容、評価方法、推薦図書、学習の準備、学習ノートの作成方法等を理解する。	田村 至
2 }	基礎医学	医学総論、解剖学、生理学、病理学について、言語聴覚士として必要な知識をまとめ、確認する。	木下 憲治 下村 敦司
3			
4 }	臨床医学	内科学、神経学、小児科学、精神医学、リハビリテーション学、耳鼻咽喉科学、臨床神経学、形成外科学について、言語聴覚士として必要な知識をまとめ、確認する。	木下 憲治 太田 亨 中川 賀嗣 大澤 昌之
10			
11 }	音声聴覚医学	呼吸発声発語系の構造・機能・病態、聴覚系の構造・機能・病態、および神経系の構造・機能・病態について、言語聴覚士として必要な知識をまとめ、確認する。	中川 賀嗣
12			
13 }	心理学	認知・学習心理、心理測定法、臨床心理学、生涯発達心理学について、言語聴覚士として必要な知識をまとめ、確認する。	橋本 竜作 森元 良太
17			
18 }	音声・言語学	音声学、音響学、聴覚心理学、言語学、言語発達学について、言語聴覚士として必要な知識をまとめ、確認する。	榊原 健一 福田 真二
22			
23	社会福祉・教育	社会保障制度、リハビリテーション概論、医療福祉教育、関係法規について、言語聴覚士として必要な知識をまとめ、確認する。	柳田 早織 下村 敦司
24 }	言語聴覚障害学総論	言語聴覚障害学総論、言語聴覚障害診断学について、言語聴覚士として必要な知識をまとめ、確認する。	田村 至
25			
26 }	失語症	失語症の定義、言語症状と失語症候群、評価・診断、訓練・援助、後天性小児失語症について、言語聴覚士として必要な知識をまとめ、確認する。	中川 賀嗣 田村 至 黒崎 芳子
28			
29 }	高次脳機能障害	神経心理学の基本概念、各種高次脳機能障害の病巣・症状・検査、高次脳機能障害の指導・訓練について、	中川 賀嗣 田村 至

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
30		言語聴覚士として必要な知識をまとめ、確認する。	黒崎 芳子
31) 35	言語発達障害学	言語発達障害の総論、評価、指導・訓練について、言語聴覚士として必要な知識をまとめ、確認する。	福田 真二 橋本 竜作 小林 健史
36) 40	発声発語・嚥下障害学	音声障害、構音障害、嚥下障害、吃音について、言語聴覚士として必要な知識をまとめ、確認する。	木下 憲治 今井 智子 柳田 早織 飯泉 智子
41) 45	聴覚障害学	小児聴覚障害、成人聴覚障害、補聴器・人工内耳、視聴覚二重障害について、言語聴覚士として必要な知識をまとめ、確認する。	前田 秀彦 葛西 聡子

【評価方法】

単位認定試験 100%

試験実施後、問題に対する疑義に対しては、解説および模範解答を開示する。

【備考】

教科書 : 広瀬肇 監修 「言語聴覚士テキスト 第2版」 医歯薬出版 2011年

参考書 : 医療研修推進財団 監修 「言語聴覚士国家試験出題基準平成25年4月版」 医歯薬出版 2013年
言語聴覚士国家試験対策委員会 編 「言語聴覚士国家試験過去問題3年間の解答と解説 2019年版」 大揚社 2018年
各領域の専門の教員が適宜、紹介する。

その他 : 1. 講義は変則日程で開講される。相当数の補講の実施が予定されている。
2. 開講日時は掲示で発表される。常に掲示を確認して、開講日時の変更に留意すること。
3. 単位認定試験の詳細はガイダンスにて説明する。

【学習の準備】

各領域の専門の教員がオムニバス形式で講義をするので、それぞれの担当教員の指示に従って予習（80分）と復習（80分）を行うこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

地域社会や国際社会において、言語聴覚障害に関する医療の発展に貢献しうる学識と実践力を身につける。